

カヌーに乗ってびわ湖に触れよう

NPO 法人びわ湖トラスト

2014年8月5日、大津市雄琴のオーパルにおいて、「カヌーに乗ってびわ湖に触れよう」が開催されました。この企画では、カヌー体験、プランクトン観察、外来魚調べと水草パウチづくりの、3つのプログラムから構成されていました。

午前10時、参加者とスタッフの顔合わせがありました。参加者は70数名で、オーパルスタッフ、滋賀県立大学の大学院生と学部生、京都大学の教員とびわ湖トラストのスタッフが参加者をお世話しました。



まず、滋賀県立大学博士課程大学院生の川端さんが、琵琶湖の水草繁茂の現状について簡単にご紹介くださり、その後、参加者とスタッフでオーパル沿岸湖水に入り、水草採集を行いました。当日は気温が高く、台風11号の影響のために風が少しずつ強くなってきましたが、概ね晴天でした。参加者は皆、元気に琵琶湖に入って思い思いにさまざまな種類の水草を採取していました。



続いて、プランクトン観察で使うプランクトン濃縮液を琵琶湖から採取しました。この作業は、オーパルの山脇さんが行って下さいました。「プランクトンは、顕微鏡で見るとは数が少なすぎるんです。なので、このプランクトンネットでプランクトンを濾し取り、濃縮して、プランクトンを濃くしてやるんです」と、慣れた口調で丁寧にご説明下さいました。この時すでに風が強く、水草等の夾雑物が少ない風上側がプランクトンネットを投げるには最適だったのですが、強い風のために山脇さんの投げるプランクトンネットは思ったより遠くへは飛びません。そこで、風下側に向かってプランクトンネットを投げることにしました。また、今回は、参加者のうち希望する子供にもプランクトンネットを投げてもらいました。山脇さんの言う「カウボーイがロープを投げる要領で、、、」に習って、子供たちは元気にネットを投げていました。



その後、採取した水草でパウチを作成しました。



私は、プランクトン観察の企画担当でしたので、主にこの企画についての報告をいたします。参加者は皆、小学生のようであり、お父さんかお母さんが付き添っておられました。顕微鏡の扱いに慣れた参加者も、全く初心者の参加者もおられましたので、まずは顕微鏡の基本的な使い方を説明し、その後、スライドグラスにサンプルをマウントして、検鏡サンプルを作る作業を説明しました。最後に、使う顕微鏡で検鏡サンプルにピントを合わせる作業を説明すると、どの参加者も概ね全員、検鏡作業が可能になりました。何とも呑み込みの早い参加者ばかりでしたので、私はビックリしました。



プランクトン観察には、1時間が割り当てられていました。参加者は、みなさん効率良く様々なプランクトンを見つけることができました。動物プランクトンではヤマトヒゲナガケンミジンコ、マルミジンコ、カイミジンコが比較的良く見つかり、植物プランクトンではユードリナ、ボルボックスが良く見られました。中には、ゾウリムシなどの比較的大型な原生動物の繊毛虫を見つける参加者もおられました。子供たちは、1時間の間、ほとんどの方が次から次へと新しいサンプルにトライしており、飽きることなく作業をしていました。また、一緒にご参加のお父様・お母様も、熱心に子供の検鏡を共に楽しんでおられました。



とは言え、「子供と一緒に可愛いプランクトンの姿を見ているだけで、大人が楽しめるだろうか？」と考えた私は、観察された各プランクトンの生態にまつわる様々なエピソードを紹介しながら、琵琶湖で有名な生物、例えばアユなどとの関わりについての知

見も紹介して、「子供も大人も楽しめるプランクトン観察」にしようと心がけました。この試みは、それなりに成功したのではないかと考えています。また、滋賀県立大学の大学院生・川端さん、同じく県大の学部生・富さんと立花さんは、大変良い動きをしてくれました。彼らは、プランクトン観察会の間中、会場内をくまなく動き回り、一人一人の参加者にピッタリと付き添って、誠意ある対応を心掛けてくれました。また、プランクトンサンプルが古くなると、新鮮なサンプルをたくさん採集して来てくれ、参加者がより多くのプランクトンを楽しく観察できるように、最大限の努力をしてくれました。彼らの努力無しには、この観察会は全く上手く回らなかったでしょう。この場をお借りして、川端さん、富さん、立花さんに、心から感謝申し上げます。

台風 11 号の影響はますます強くなり、お昼頃からは琵琶湖上の風は大変強くなってしまいました。このため、全ての企画を 10 分ずつ繰り上げることにしました。しかし、この程度の時間調整は、どの企画にも大きな影響はなく、むしろカヌー体験のように琵琶湖上に漕ぎ出でる企画の安全性を高める効果がありました。また、オーパルのスタッフは、強風下でも参加者が安全に楽しく琵琶湖に触れることができるよう、細心の注意を払いつつ、笑顔で参加者をリードしてくれました。



オーパルスタッフは、外来魚調べの企画もお世話してくださいました。この企画も、ずっと野外作業のハードワークでしたが、全員が楽しく作業を進めていました。強風のために釣り糸が十分に扱えない場面もあったようですが、オーパルスタッフが参加者全

員にきちんと目を届かせていたこと、また参加者もスタッフの助言と注意にきちんと従い、正しく恐れて企画を楽しむ姿勢を保ったことが、今回の成功の原因であったと思います。



この日は、群馬県の館林市で最高気温39.5℃を記録するなど、この年で最も暑い日となりましたが、参加者・スタッフともに熱中症になることもなく、元気にすべての企画を終えることができました。最後の記念写真撮影会の際、参加者もスタッフも、全員が満足した表情で写真に収まりました。

